

一 般 質 問 通 告 書

令和 7年 8月 25日

高島市議会議長 河越 安実治 様

高島市議会議員 15 番 廣部 真造

次の事項について質問いたしたいので通告します。

※質問項目（番号）が2以上ある場合は、次のどちらかに○をつけてください。

- ・質問番号1の用紙にだけご記入ください。
- ・質問が一つだけの場合は必然的に1となりますので、記入は不要です。

初問は { 1. 全項目一括質問一括答弁
②. 項目ごとに一括質問一括答弁

(質問番号 1)	特定外来生物 クビアカツヤカミキリの対応について
発 言 事 項	
要 旨 (項目だけでなく、質問の趣旨が理解できるように記入してください。)	
	<p>クビアカツヤカミキリは特定外来生物で2012年に国内での発生が確認されました。この幼虫は桜、ウメ、モモ、スモモ、カキ等の樹木内で成長・食害し、枯死させることがあります。隣接府県ではすでに桜並木が伐採されている所もあります。本年7月に長浜市でこの成虫が県内で初めて発見されました。とうとう対岸の火事ではなくなっていました。本市においても、発見されていないだけで、すでに害虫が存在していることも考えられます。</p> <p>果樹や桜の木を枯死させるこの害虫被害を防ぐためには早期発見・防除が重要であります。</p> <p>この害虫の特徴として、幼虫は2年かけて樹木内で成長します。3月から11月ごろに樹木内の幼虫が、フラス（木くずと糞が混ざったひも状に長く伸びたもの）を大量に排出します。このフラスを発見することにより、樹木内に生息している幼虫の発見に繋がります。樹木にある穴から殺虫剤を噴射するなどします。成虫は6月～9月に発生し、昼間に活動します。平均300個、最大1,000個の卵を樹皮に産卵します。成虫は昼間に樹幹部を観察発見し駆除します。</p>

フラスや成虫の発見後の対応については、すでにその被害や生息が確認されている地域での具体的な対応方法が知られています。

何よりもこの害虫による被害拡大を防ぐ効果的な手段は、早期発見であります。ウメ、モモ、カキなどの果樹を生育されている果樹農家の皆さんは、危機感を抱かれていますと考えます。市内各地域にある桜並木を管理されている方々も同様であると考えます。

早期発見の為には、より多くの市民の皆さんにも早期発見の協力を求める必要があると考えます。市内の各地域で愛着を持って育てられ、見守られてきた桜の樹々があります。しかしながら、日頃から関心をもって管理をされていることは稀だと考えます。もし、幼虫が排泄したフラスが在っても発見されずに放置され、早期発見に至らない。木が弱り枯れ始めて、ようやく気づくのではないのでしょうか。ところが、既に成虫になった害虫が離れた樹々へと卵を産み付けてしまうことが心配されます。それらの成虫がやがて果樹農家や桜並木を管理されている果樹や桜へ飛来し、卵を産み付けることが危惧されます。

果樹農家さんの果樹、桜並木の桜のように、生育している場所や地域をピンポイントで対策するだけでは、被害を防ぐことは難しいと考えます。点としてではなく市内全域を面として防ぐ努力が必要であると考えます。そのためには、多くの市民の皆様への害虫駆除への啓発活動と市民による発見と駆除も必要であると考えます。

そこで、クビアカツヤカミキリの対応策について市の見解を伺うものであります。